

お知らせ

INFORMATION

No.2015-38

2015年9月

病体生理研究所

検査内容の変更及び検査中止について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記項目におきまして検査内容の変更及び検査受付の中止をさせていただきます。

何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【検査内容の変更について】

- ◆ビタミン B1 (VB1) (チアミン) [10236] …検査案内掲載 P.13
- ◆PA-IgG (血小板表面 IgG) [10887] …検査案内掲載 P.56

《変更日》2015年10月1日(木) 受付分より

【検査の受付が中止となる項目】

- ◆インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド
(INTACT - PINP) [14760] …検査案内掲載 P.46

《最終受付可能日》2015年9月29日(火) 受付分まで

【代替項目】

- ◆I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド
(total P1NP) [16732] …お知らせNo.2015-27 参照 関連図裏面参照

【検査内容の変更について】

検査項目〔コード〕 検査案内P	変更箇所	新	従来	備考
ビタミン B1 (VB1) (チアミン) [10236] P.13	検査方法	LC-MS/MS	HPLC	検査方法変更のため。基準値、採取方法等、その他の変更はございません。
	所要日数	4~8日	5~8日	
PA-IgG (血小板表面 IgG) [10887] P.56	基準値	30.2 以下 ng/10 ⁷ cells	5.0~25.0 ng/10 ⁷ cells	基準値の見直しのため。検査方法、採取方法、その他の変更はございません。
	報告 下限値	PLT 数により変動 ※参照	5.0 未満 ng/10 ⁷ cells	

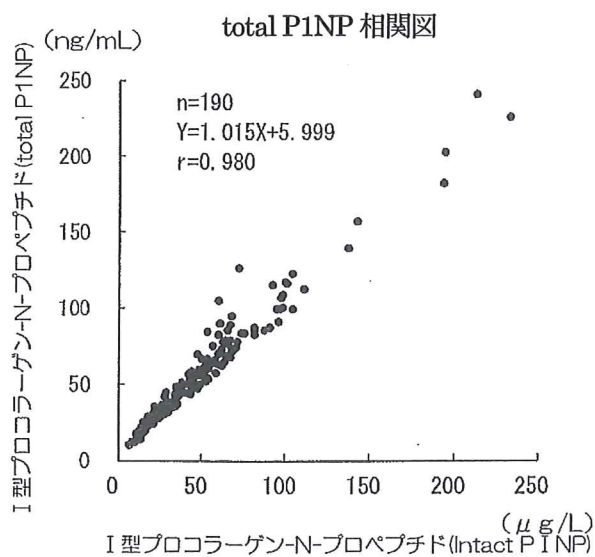
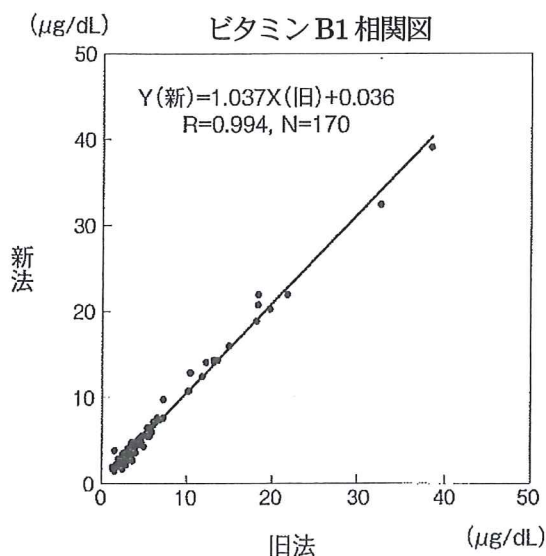
*PA-IgG 基準値見直しについて

現行基準値は、健常者実測値の平均値±2SD で定義される“統計学的基準範囲”を採用していますが、ご承知の通り PA-IgG 検査は血小板減少症に關与する抗血小板自己抗体の検出を目的とし、正常下限側の高低を判定すべき臨床的意義はありません。そのため、新基準値にあつては平均値+2SD にて求められる上限値のみを定めることに致しました。

なお、PA-IgG 測定系においては、血小板数と血小板に結合している IgG を測定し、血小板に結合している IgG を血小板 10⁷cells 当たりの量として報告しております。これまでは血小板数で補正後の検査値が基準値下限である 5.0ng/10⁷cells を下回った場合、低値における検査精度の問題から便宜的に一律“5.0ng/10⁷cells”としてご報告して参りました。しかしながら、低値域の臨床的意義が事実上ないとは云え、検査結果の表現として適正さを欠くことは否めず、今般の基準値再設定を機に、血小板数補正後の数値をそのままご報告させていただきます。

※ 変更後の報告下限値は被検検体中の血小板数により、概ね 1~3ng/10⁷cells 前後変動する場合があります。

【従来法と新法の相関】



以上